

平成 23 年度

産学連携による分野別インターンシップ制度のあり方に関する調査・研究

— 報告書 —

平成 24 年 3 月 16 日

産学連携建築教育連絡会議

全国建築系大学教育連絡会議

1. 調査・研究の目的

全国建築系大学教育連絡協議会の調査によると、改正建築士法により導入された大学院インターンシップ制度においては、産学間で考え方に乖離が存在するだけでなく、大学によって取得単位数と就業時間の関係等が異なるなど大学間でもその目的や考え方、書類の書式が異なっており、現場に混乱を招いている様子が窺われる。

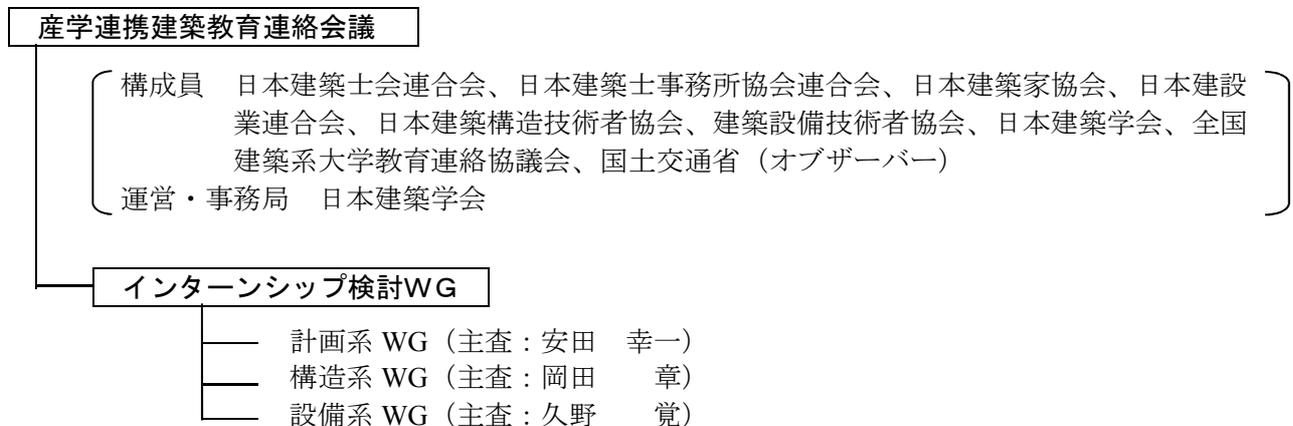
一方「産学連携建築教育連絡会議（2009.6～）」では、産学の代表者が一同に会し、インターンシップ制度に関する情報交換・意見交換を行っているが、受入側からは「実務訓練プログラムや費用負担等に関する“共通ルール”が欲しい」との声もある。

そこで、産学双方の現場で抱えている問題点を調査・整理するとともに、インターンシップのガイドラインあるいは運用指針的な資料を取りまとめることによって、今後のインターンシップ制度の質的向上と運営の円滑化に資することを目的とする。

2. 調査・研究の方針と項目・方法について

<調査・研究の体制>

産学連携建築教育連絡会議の下に、3つの分野別WGから構成される「インターンシップ検討WG」を設けて検討を行った。



<開催概要>

- ・計画系・構造系・設備系 全体 WG
 - ① 2011.5.9、②6.8、③12.15、④2012.1.10
- ・計画系 WG
 - ①2011.4.22、②12.9
- ・産学連携建築教育連絡会議
 - ①2011.4.18、14:00～16:00、②11.17、17:00～19:00
- ・全国建築系大学教育連絡会議
 - ①2011.4.5、17:00～19:00、②6.8、17:00～19:00、③10.26、17:00～19:00
- ・シンポジウム「インターンシップの円滑な運用に向けた産学連携の取り組み」
2011.8.25、10:00～12:30、於・早稲田大学（建築学会大会会場）

<調査・研究の方針と項目、方法>

最初に3系の全体WGで共通認識を形成したのち、系ごとに、標準的な実務経験プログラム案と書式の検討を行った。一年目は各専門分野の特性に応じた検討を中心とし、二年目は3系による理念や書式の統一等を研究の基本方針とした。

【計画系WG】

検討の開始にあたり、まず、インターンシップの共通認識の必要性を踏まえ、「共通理念」を検討した。すなわち、インターンシップの目的を「産」「学」「産学共通」ごとに整理するとともに、大学院教育におけるインターンシップの意義を明示した。これらは計画系にとどまらず他系においても共有できる理念と目的を示している。

また、インターンシップで使用される共通書式（フォーマット）として「共通データシート」「研修記録・実施報告シート」を検討した。この共通書式（フォーマット）は、計画系のみならず構造系、設備系でも利用できるものとなっていて、申請～単位認定まで一貫した利用が可能となる。関係者の負担軽減のみならず、様々なメリットが生じると認識している。

【構造系WG】

検討の開始にあたり、まずWGの構成メンバーの構造設計部門におけるインターンシップの受け入れの仕組み、および学生6名から実際に経験したインターンシップの内容と感想を報告してもらい、実態把握と問題点を調査した。そのうえで、構造系インターンシップの実施プログラムの例を設計のフェーズごとにまとめた。これらは、インターンシップで実施すべき項目を網羅したものではなく、一連の構造設計の流れのなかで、自分が体験したのはどの部分なのかが容易に把握できることを目的としている。また、産学双方の負担軽減と共通認識の醸成のため報告書の書式を共通書式（フォーマット）に整えた。

【設備系WG】

検討の開始にあたり、まず、設備設計者が実際に行う設計業務・プロセスおよび設備設計者が具備すべき技術・能力を整理した。続いて、インターンシップにおいてどのような経験が可能か、との観点から、設備系インターンシップのメニュー案を取りまとめた。このメニュー案をもとに、実際の実施例を参考にしながらモデルプラン（参考例）を数種類検討した。また、大都市・大規模組織だけでなく、地方都市・中小規模組織にも十分適用可能なものとなるよう配慮しながら検討を行った。

*

2011年8月25日には建築学会の関東大会（早稲田大学）において、シンポジウム「インターンシップの円滑な運用に向けた産学連携の取り組み」を開催し、分野別WGの成果報告とともにインターンシップを体験した学生ならびにその受け入れ側から実際の体験を語っていただき、産学の意見交換を行った。

その後、全国建築系大学教育連絡会運営委員会（2011.10.26）、および産学連携建築教育連絡会議（2011.11.17）においても分野別WGの成果報告を行い、それぞれの検討内容と共通書式について意見交換を行った。

また、インターンシップ制度の開始2年目にあたり、「2010年度大学院インターンシップの受講状況に関する調査」として、各大学院におけるインターンシップの履修申告者数・単位取得者数を「M1」「M2」ごとに調査し、その集計結果を上記シンポジウムにおいて報告した。

3. まとめ

2011年4月に各WGの中間報告を取りまとめ、4月18日の産学連携建築教育連絡会議で意見交換を行い、その結果をふまえ2011年度のインターンシップにおいて、各系の中間報告書を「ガイドライン」として試用してもらい、関係各方面からの意見聴取も踏まえて平成23年度の報告書を取りまとめた。この報告書を2012年度のインターンシップに用いてもらうよう関係各方面への配布を行った。

以上